

編集後記

この冊子が皆さんのお手元に届く頃には、秋季講演会の参加申込・原稿受付が始まっているでしょうか。今年の秋季講演会は、できたてほやほやの東京工業大学地球生命研究所(ELSI)で開催されます。新しく建設された建物には、きれいな講演会場や、やたらにくねくねと曲がっている机が切れ目なく繋がっている前衛的な大部屋などもあるようで、今から参加するのが楽しみです。講演会の詳細については本号の井田さんの案内記事を、ELSIの様子については前号や本号の木村さんの研究会開催報告をご覧ください。

さて、秋季講演会と言えば、最優秀発表賞です。院生さんのいる研究室では、発表賞への応募が話題にのぼるのではないのでしょうか。「なあ、発表賞どうする?」「んー、発表ネタはあるけれど、口頭とポスターどっちもやらなきゃなんでしょ? ダルくね?」と思っているそのの貴方! 逆です! 口頭とポスター、両方できちゃうんです。近年は講演者の増加に伴い、口頭発表の時間が限られてきています。ですが、発表賞講演で

は通常の1.5倍ほどの時間がもらえます。それで足りなかったとしても、さらにポスターでしゃべり倒せます。おまけに、審査員を務める偉い先生方がこぞって聴衆になってくれるというサービスつき。このように、エントリーするだけでもメリットだらけの発表賞ですが、ウィナーになればさらにお得です。講演会会場では皆さんから祝福され、さらには本誌に「最優秀発表賞受賞論文」と銘打って論文を掲載する名誉がもらえます。ですから皆さん、発表ネタがあれば、ぜひ気負わずにエントリーしてください。なお、本号には2014年度ウィナーの松野さんの記事が掲載されていますので、ぜひご覧下さい。

最優秀発表賞は、最優秀研究者賞とともに、2002年に非会員の方から頂いた多額の寄付により創設されました。当時修士の学生だった私は、「若手研究者育成のために」と匿名で寄付をしてくださったことに感動を覚えた記憶があります。13回目を迎える今年の発表賞も盛り上げていきましょう。(三浦)